

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2023.02.No306

2月号

目次

北海道住宅フェアへ参加して……	1
特別活動報告……	2
実行委員会報告・新年の活動方針等……	3
女性の窓……	6
<small>【No.108 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会】</small>	
Coffee Break……	7
information……	8

URL <https://www.h-ab.com/>

北海道住宅フェアへ参加して

被災地応急支援委員会 屋 伸 めぐみ (恵庭支部)



被災地応急支援委員会では10月15日・16日の2日間で北海道の主催により開催された「北海道住宅フェア2022」にブースを出展しました。

昨年から参加していたイベントではありますが、昨年は新型コロナウイルスの影響で対面開催が叶わず、オンライン配信だったため、初の集客型としての開催でした。

会場はアカプラ（札幌市北3条広場）とチ・カ・ホ（札幌駅前通地下歩行空間）で展開され、タレントの方によるトークイベントやゆるキャラじゃんけん大会、アーティストのライブ、ワークショップなどが開催されており、たくさんのハウスメーカーや建築関係団体などの総勢42ものブース出展のほかにキッチンカーも並ぶ住宅の“お祭り”といった様子でした。住宅に興味のある方以外にも、チ・カ・ホを通行している方も立ち寄りやすいイベントとなっていました。

被災地応急支援委員会のブースは“チャレンジ・ザ・判定士!!”と題して、一般の方に建築物の模型を見ながら簡単な建築物応急危険度判定に取り組んでいただく内容となっていました。

華やかで賑やかなブースがたくさん並ぶなかで、災害を取り扱うブースは毛色が違いすぎるのではなか…と若干の不安のなかでイベントがスタート。

初日は9時からの早いスタートでしたが、チ・カ・ホ会場で出展していたこともあり、通勤や通学で通行中の方が立ち寄っていただけた効果がありました。

来場者の方は“応急危険度判定”という言葉を知ることがない方がほとんどですが、判定を行うタイミングや内容、罹災証明との違い等について真剣に説明を聞き、模型をじっくり見ながら判定に取り組んでくださっていました。

来場者は1日目35名、2日目44名と予想を上回って多くの方に判定にご参加いただき、就学前のお子

さんから80代の方まで幅広い年代の方がチャレンジしてくださいました。お子さんが模型を見て建築に興味を持ってくれることが嬉しく、将来は建築士として、一緒に判定をしてくれる仲間になるかもしれないという希望を抱いてしまいます。

来場者の中には建築関係の方もいましたが、多くの方は建築に馴染みのない方です。ブース来場のきっかけは「昨今の地震の頻発に不安を抱いている」「掲示している調査票（赤・黄・青紙）が気になった」など、防災の意識から興味を持ってくださる方が多いようでした。

応急危険度判定は二次被害を防止する目的であるため、一次被害においてはみなさんが所有する建築物の耐震化や、防災意識に頼るところが大きいです。

胆振東部地震から4年が経過し、防災を考える機会が減ってきたところだと思います。今回の判定チャレンジを防災意識の向上に繋げていただけると幸いです。

応急危険度判定のことなど忘れてしまうくらい災害から縁遠い日が続くことを願いますが、もしものときに知識を活用できるように、建築士のみなさんの応急危険度判定士認定講習の受講や、応急危険度判定制度ネットワークへの登録にご協力お願い致します。



当日 応急支援委員会ブースの様子

建築、景観、まちを通してまちづくり活動を総合的に捉える連続講座のプレ開催



札幌支部まちづくり委員会 川原昌彦 (札幌支部)

2022年、運営資金の一部に特別活動費助成金を活用し「歴まち」「バリアフリー」「景観」「木」「街なか」などの領域を複合的、あるいは横断的にまちづくりに関するイベントを6回開催しました。

昨今、まちづくり活動は、専門性の特化に重点が置かれ細分化の傾向です。領域は歴まち、景観、防災、街なか、福祉、木材の分野と多岐に渡ります。これは、社会のニーズ（行政の補助金や行政の領域など）に対応し、それに応えるため専門領域への特化が求められることが理由となります。それにより各領域への専門性の獲得という利点の一方、まちづくり活動は分業化され分断化されつつあります。

ときに「木を見て森を見ず」となりがちに。

もともと、まちづくりは専門性を持った人材たちによる他領域をつなげ全体をカバーする全体志向型でした。多様なひとの暮らしと営みによって形づくられている「まち」を対象とするものであって、本来、それぞれの分野をつなぐ役割が求められます。

今回のこれらイベントの取り組みは、多岐にわたるまちづくり活動を整理し、その関係性やつながりについて総合的に捉えられる「感覚」をはぐくむ連続講座を本格開催する前の試行として開催を行いました。

1. 10/29(土) 地域と建物のなりたち1 「篠路の歴史と篠路駅周辺の建物群の現状」



(北海道文化遺産活用活性化実行委員会と合同企画)
講師：杉浦 正人氏 (札幌建築鑑賞会)
参加者：13名

2. 11/3(木) バリアフリーなまちあるき

案内：牧野 准子氏 (ユニバーサルデザイン(有)環工房 代表取締役)、参加者：13名



3. 11/3(木) 地域と建物のなりたち2 「すすきの周辺の歴史と今後の変化を考える」

(北海道文化遺産活用活性化実行委員会との合同企画)
講師：石川 圭子氏 (民衆史研究家・元鴨々堂店主)
参加者：31名



4. 11/12(土) 建築ゆるさんぽ ～ぶらぶらと街の不思議を探りながら街をみて歩く～

案内：支部まちづくり委員、参加者：10名



5. 11/26(土) 景観バスツアー小樽編

「札幌と小樽のまちの成り立ちをキーワードに」
講師：羽深 久夫氏 (札幌市立大学 名誉教授)、駒木 定正氏 (北海道職業能力開発大学校特別顧問)
参加者：24名



6. 12/15(木) よなよな街並みゆるさんぽ ～冬の夜の街を見て・感じるまちあるき～

案内人：廣田 大氏 (札幌夜景ナビゲーター) 支部まちづくり委員。参加者数：16名



イベント全体を通して領域を横断的・複合的に取り込むことで、ある一つの領域での正解が、他の領域では不都合であるなど、まちづくりの分断によるちぐはぐさ【サイン：景観や意匠に配慮した結果、バリアフリーとしては小さくわかりづらく、数が少ない】や、逆に新たな視点や総合的な感覚によって街の断片的な小さな風景を重ね合わせることで見える景色、ハーモニーといった街の魅力の発見や気づきを多く得られました。今回の試行から得られたものを検証し、2023年はまちづくりを体系的に学べる講座の本格開催を目指したいと考えます。

総務・企画委員会

withコロナ～支部との連携は。

委員長 高橋 幸二（日高支部）



委員長として、3年が過ぎ、『なかった1年間』に、してもらいたいと書き続けています。今年の総括に計画も、コロナ禍を踏まえてのものですが、長い時間が『慣れ』を生んだか、ワクチンによる対策効果なのか、様々な分野でリスタートに踏み切り、withコロナが体现されているのでしょうか。我が会でも象徴されるのが、全道大会、全国大会ですね。しかし、新たなスタイルが構築され、コロナ対策でネット活用が増えるかと思えば、真逆に対面による参加が予想より増える結果になりました。皆さん、対面による関りに飢えていたんでしょね。大きな反動がなく幸いでした。

さて、新たな取り組みとして、最近の委員会での議論で持ち上がりました、コロナ禍の影響にて活動が中止され、運営資金調達が困難な状況や、会員数の減少にて活動が制限されるなどの事例が増えたことです。本委員会の所管事項である支部との連携強化をより一層深めるに着目して、財政基盤の強化につながる情報交換などの機会を増やして、対応していきたいです。

出来る人が、出来る時に、出来ない時は、出来る人を探し、応援し、出来ることから逃げないこと。

委員会や支部との議論、交流を深め、課題の克服へ、皆様のご助言とご協力を貰えるように、重ねてお願い致します。

情報委員会

継続とマンネリ

委員長 森 勝利（日高支部）



2022年度の活動を振り返りますと、当会創立70周年の記念の年の8月に、会誌「北海道建築士」の『300号』と『創立70周年記念号』が発行となりました。これまでの発行に対し、寄稿いただきましたすべての方々に敬意を表するとともに、今後とも変わらぬご協力をよろしくお願いいたします。

また、全道大会としては、2018年第43回大会（士別大会）以来となる「号外」の発行にも取り組みました。委員の半数以上が未経験という状況ではありましたが、事前準備から当日の取材、校正、発行と円滑に進めることができたと思います。

先日、2022年第3回情報委員会を開催し、2023年度の活動方針について確認し、会誌「北海道建築士」の毎月発行（No.305～316）、第45回大会（北空知大会）での号外発行に取り組むこととしましたが、第39回全道大会（旭川大会）から取り組んでいる「号外」発行については、2022年第5回理事会において、今後の全道大会のあり方を議論する中で、今後も継続するべきか、検証すべきという貴重な意見をいただきました。

2024年大会に向けた課題として、情報委員会としても、これまでの取り組みを検証するとともに今後のあり方を協議したいと考えています。

事業委員会

実を結ぶ1年

委員長 丹波 泰哉（千歳支部）



2期目の委員長をお引き受けしてから早いもので1年が経ちました。令和4年は幾分活動することができた1年だったと思います。コロナ前に比べればまだまだ少ないのですが、本年は昨年以上に積極的な活動をしていきたいと考えております。

当委員会では令和3年より「北海道建築士会特別活動費の助成の決定に関する業務」を担当しております。これまでに令和3年に1件、令和4年に3件、令和5年に2件の秀逸な事業に対し、助成決定してきました。そしてそのうちの1件が実を結ぶこととなりました。建築士会全国大会「あきた大会」にて、令和3年に助成決定した「WEBアプリ パズルで住まいを考えよう！」が地域実践活動発表会で「優秀賞」と「連合青年委員会賞」のダブル受賞を果たしました。助成決定した事業が全国の方々に認められたことは自分の事のように嬉しい限りで、今後このあとに続く事業に期待するところです。多数の応募をお待ちしております。

この「特別活動費」が活動再開のきっかけとなりつつあります。支部活動が活性化されることを心より願うと共に、皆さまの事業に対して微力ながらお役に立ちたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

まちづくり委員会

まちづくりの輪を広げる活動を

委員長 清水 浩史（札幌支部）



昨年に引き続き、まちづくり委員長を務めさせていただきます。札幌支部の清水です。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は、新型コロナ対策をしっかりととりながらですが、3年ぶりにリアル（対面）で事業を行うことができました。8月には、一昨年現地で開催できず、オンライン開催となったまちづくりフォーラムのアフターミーティング。一昨年の参加者で当麻町を訪問し、町長に町内をご案内いただきながら、当麻町のまちづくりを五感で学びました。9月には全道大会空知大会B分科会。「食と建築とまちづくり」をテーマとして、三笠市のまちづくりや食を彩る建築の役割などを学びました。そして、10月には「まちづくりフォーラムin石狩」。まち歩きから始まり、市長と地元で活動されている方の講演を通して石狩のまちづくりを学ぶとともに、リアルでは初めて「ブレストカード」を使ったグループワークで石狩のミライを考えました。

このように、やっとリアルで様々な活動ができるようになってきました。皆さんも心待ちにしていたのではないのでしょうか。

今年も、これまでの事業でできた繋がりも活かしながら、まちづくりの輪を更に広げる活動を行ってまいりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

青年委員会

Withコロナに向けた委員会活動

委員長 佐々木 強志 (北見支部)



あけましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしく願いいたします。

さて、令和4年の青年委員会活動は、3月の全道青年委員会連絡会議はオンライン開催となりましたが、5月に室蘭で開催した青年建築士の集いやその他の事業は、抗原検査キットで陰性を確認するなど感染対策を行い、対面で開催することが出来ました。久しぶりに青年の仲間が集まり大変有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

今年は、青年建築士の集いが私の地元である北見支部で開催される予定となっており、全道の青年建築士を北見にお迎えして、何が出来るか色々と考えているところです。

令和5年の委員会活動にあたり、Zeroコロナにはならないと思いますので、Withコロナを念頭に置き、オンラインツールなども活用しつつ、リアルに集まることを大切にしながら青年委員会活動を行っていききたいと思います。

本部青年委員会の委員も任期2年目を迎え、昨年の経験を活かし、任期最後となる本年を実りある1年にしたいと思います。今年一年、皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

被災地応急支援委員会

災害対応と災害対策

委員長 金谷 祐 (小樽支部)



2019年以来の対面での道庁主催の研修会に参加、建築士会主催の応急判定机上訓練の開催、住宅フェア2022に出展など新体制での活動が無事に終えたことに安堵の思いです。ご協力いただいた皆様お世話になりました。ありがとうございます。

災害対応について建築技術者としての役割を考えてみると、家屋の応急修理や復旧工事を通して普段の暮らしを一日も早く取り戻せることが建築技術者としての役割と考えます。地震や風水害等による被災家屋の安全確認調査から始まり、応急修理や本格的な復旧工事、被災者の生活再建に向けた継続した住宅相談活動と共に、木造応急仮設住宅の建設や木造復興住宅建設での協力、歴史的建造物の被災調査など、建築技術者として多岐にわたる復興まちづくりへの支援活動です。こうした応急修理や本格復旧工事は、地域の施工者を会員に持つ各建築士会の役割が大きいと思っています。

災害時の迅速な復興支援活動の実施には、平常時から各建築士会が地域や自治体との連携が必要になります。建築士会各支部が普段付き合いとしての災害対策活動を継続的に展開し、地域や自治体との信頼関係を築くことを目標に活動していきたいと思っております。各支部、会員の皆様ご協力よろしく願い致します。

女性委員会

抱負とこれから

委員長 後藤 朋恵 (札幌支部)



令和4年は委員長を引き受けて初めての全道大会A分科会を担当して、歴代の女性委員長の偉大さを身に染みて感じる事が出来ました。

令和5年、女性委員会は昨年、A分科会で廃校を生かす取り組みをしている方々と知り合う事が出来ましたので、引き続き「廃校」をめぐる活動に賛同出来ればと思います。また、コロナ禍で中止になっている「住教育セミナー」を再開できたらと思います。従来の対面出張だけではなく、リモートも取り入れながらも続けていきたい事業と考えています。全国女性建築士連絡協議会に参加させていただいていますが一つのテーマを長年続けて活動し、成果を上げている地域の方々が数多くおられます。北海道女性委員会も、今までの成果を引き継ぎ更に継続出来る取組をしたいと思っております。会員増強の活動計画としては、古民家、名建築、廃校利用の建築散歩ツアーを各ブロックで開催し、広く参加者を募り建築ファンとつながっていきけるようなイベントを開催したいと考えています。また、各地域で災害時、仲間作り、コミュニティ等の居場所作りのお手伝いを建築士の立場で、何か出来ないかと模索しています。

1年間で成果を上げるのは難しいと思っておりますが、継続することで形になっていくよう楽しみながら活動したいと考えています。

会員増強特別委員会

会員増強の現状と今後

委員 大田 幸広 (旭川支部)



令和3年4月より建築士継続能力開発(CPD)が建築業法の経営事項審査の加点対象となりました。

1月からは北海道建築士会に準会員として施工管理技士の有資格者を対象に技師会員が創設されました。技師会員として登録いただきCPDをより手軽に取得できることとなり、企業の経営審査の加点につなげていただければと考えています。旭川支部ではまだこの制度が十分に理解していただけていないように感じています、経営審査の申請の際にCPDの実績証明をより簡便にできることも検討を進めているところです。本年度は会員企業、賛助会員を含めこの制度の周知を図り、メリットを理解いただくようアピールに努めていきたいと考えています。コロナの蔓延により約3年間支部の活動が停滞した状況にあり、会員増強についても積極的な活動ができませんでした。新会員の増強に向け活動することも重要ですが、現会員の皆さんが建築士会の会員でよかったと感じていただけるような活動が大事だと考えています。何が出来るのか皆さんと共に考えていきたいと思っております。活発な活動が新会員の発掘と現会員の継続の意義になればと思います。コロナの感染状況の今後は読めませんが、会員増強へのご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い致します。

ヘリテージマネージャー特別委員会

これまでとこれからも

委員長 川原 昌彦 (札幌支部)



前期2022年では、計13回に及ぶ「第8期北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座」を開催し、ヘリテージマネージャー (HM) とコーディネーター (HC) 合わせて計16名の方が修了されました。

その他にも様々な活動を行い、アドバイザー講習会1回、2日間のフォローアップ講習会を函館で1回と開拓の村で改修工事現場見学。一般の方へ向けた普及啓発事業を網走と稚内で各1回、そして篠路とすすきのにおいてのまちあるき、さらに古民家の歴史的調査を9月～令和5年1月の間に行っており、その報告書のまとめを行いました。これらの活動を通して、この連続と続く状況に充実感とともに疲労感を覚えました。全体的な活動の将来ビジョンを見据えるためには、少し余力を持つ必要があると感じています。

2023年は、第9期講座開催の他、災害時の歴史的建造物の被災調査協定(連合会を含む5者協定)に基づいた要請があった場合に対応できるよう道内の連絡体制の検討や、HM・HCにむけた歴史的建造物の劣化度調査実習を含め、設計・監理や保存修理に対応できるように役立つ様々な講習等の機会を設けたいと考えています。これら喫緊の課題も含め取り組んで参ります。今後ともよろしくお願いたします。

地域貢献活動センター委員会

「今年こそ活動を開始しよう！」

委員長 鈴木 徹 (十勝支部)



委員長就任後、新型コロナウイルスの感染拡大により、建築士会活動のほとんどの事業が縮小や中止となり、3年間助成金の申請はありませんでした。しかし最近では、コロナ感染に注意しながら活動ができる状況になっています。今年こそ中断していた事業を再開し、建築士として地域貢献活動を模索し、実践してみませんか。委員会では、建築士会会員が参画する営利を目的としない地域貢献活動を支援し、その活動費を補助することを目的としています。対象事業は、以下のテーマに沿うものです。(詳しくはHPをご参照ください)

1. 歴史資産の保全・再生・活用
2. 景観の保全・再生
3. 居住空間の保全・整備
4. 自然環境の保全・整備
5. 福祉環境整備
6. 防災活動や防災施設の整備
7. こどもの住教育やまちづくり教育
8. 建築やまちづくりによる地域活性化
9. その他、活動センターが地域貢献活動と認めるもの

建築士会は、建築士の地域貢献活動を応援しています。お気軽にご相談下さい。ご応募をお待ちしています。

BIM推進特別委員会

BIM仲間をつくろう

委員長 大門 浩之 (札幌支部)



令和4年のBIM推進特別委員会の活動としては、オンラインセミナー doBIMを昨年から継続開催したことに加え、委員会発足以来コロナ禍により開催できなかった4ベンダーによるハンズオンセミナーをついに開催できました。募集人数を絞っての開催でしたので、満員で参加出来なかった方、都合が合わなかった方、令和5年も内容をパワーアップして開催予定ですので、ご参加お待ちしております。

令和5年も引き続きdoBIMセミナーを開催します。後半は対面オンラインのハイブリッド開催に移行する予定です。遠方からでも参加可能なオンラインセミナーもメリットはありますが、対面開催による体験や人的ネットワークの形成はオンラインでは得られません。是非、会場にて参加いただき、BIM仲間を増やしてください。

報道等で承知の方もいらっしゃるかと思いますが、昨年11月、国交省のBIM推進会議環境整備部会で今後の工程表が発表され、2025年BIM確認申請の試行開始がアナウンスされました。また、まもなく開始する「BIM加速化事業」にはこれまでとは桁違いの補正予算が充てられました。今後3年間でBIMを取り巻く環境の激変が予想されます。これらも情報が更新され次第アナウンスしていきます。

令和5年

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。

また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No313」に掲載します。

多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No307」に掲載。また北海道建築士会HP (<https://www.h-ab.com/>)では、第1回～10回の作品も見ることができます。

■お知らせ■

洗濯機による事故を未然に防ぐための情報が一般財団法人ベターリビングより届きました。詳しくは、ベターリビングのホームページをご覧ください。

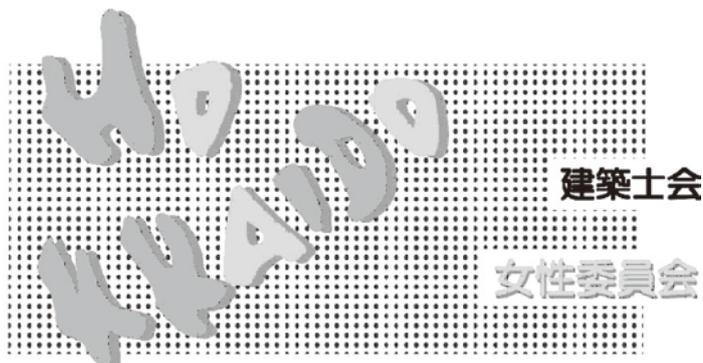
「洗濯機の底面に手を入れて

けがをする事故にご注意！」

ごぞんじでしたか？住宅部品 Vol.1

<https://www.cbl.or.jp/info/621.html>

No. 108



北海道旭川工業高等学校ワークショップ

～『旭川市の「とき」に映える新庁舎』～

齊藤 裕美 (旭川支部)

季節のしつらいを学ぶ

—しめ縄スワッグづくり—

新海 直美 (札幌支部)

札幌支部女性委員会で兼ねてからの念願だったスワッグづくり。

2022年12月3日(土)に開催となりました。

講師は森脇理恵さん。元看護師であり、日本で唯一のフラワーデザインに関する国家資格「一級フラワー装飾技能士」や「植物療法士」をお持ちという異色の経歴の方です。

今回はインド料理のお店の一角をお借りしての開催となったのですが、そのシチュエーションも中々面白く、わくわくとした中で始まりました。

下記の材料を先生がご用意下さいました。

1. コニファー：ブルーアイス
 2. コニファー：ブルーバード
 3. リューカデンドロン：レッドタグ
 4. ユーカリの実：テトラゴナ・ナッツ
 5. 月桃の実
 6. 山帰来 (サンキライ)
- 他にリボンや水引きなど

個人ではあまり手にすることはないのであろう大ぶりの枝や、見たことのない品種に、わーっと声が上がります。原産地や植物としての効能などの他、美しくみせるコツとして、ひし形に整えることや上部にボリュームをもたせること、しっかりとした括り方なども

教えて頂き制作がはじまりました。

もの作りが好きな参加者ばかりだからでしょうか、皆、あーでもないこーでもないといつぶやきながらも一心不乱に作っていきます。

コニファーの枝を切ると、爽やかな香りが立って、思わず深呼吸。焦る気持ちを癒してくれるのでした。



〈香りをお伝えできないのが残念〉

スワッグが出来上がったら、リボンをつけてクリスマス仕様が完成です。リボンもブラックとホワイト、ピンクとご用意頂き、其々の好みの色を見てまたひと盛り上がり(笑)

クリスマスを過ぎたら、そのリボンを水引きに取り替えて、しめ飾りになるという2度美味しい仕様のスワッグとなっています。

やはりワークショップは楽しいですね。2023年もまた何かものづくりができたらと思います。



〈お子様も一緒に参加頂きました〉

建設業界や設計分野も含め、若手の担い手不足の問題から建築の楽しさ、素晴らしさを伝えたいという思いで始めたこの事業も、今年で9回目となりました。

今回のテーマは来年竣工予定の「旭川新庁舎」です。旭川市役所の設計までの道のりと、その後設計委託を受けた(株)久米設計の魚本さんから設計の意図やプロポーザル時のお話しをして頂きました。後半はワークシートに1階のロビー、8階の議場、9階の展望ラウンジを高校生の視点で当初の目的以外の使い方のアイデアをグループで考え、発表してもらいました。・地元の食材を味わってもらうマルシェ・夜景を見ながら地酒で乾杯・ジムとサウナとカフェ (高校生も気分転換する場所が欲しい!)・議場をeスポーツ世界大会会場→世界中に旭川をアピール出来るなどのアイデアが出ました。

アンケートの回答からは「自分は将来設計事務所に就職したいと考えているので、設計士の仕事内容が詳しく聞けてとても参考になりました。」「プレゼンテーションの仕方などあまり学校でやらないことができたので、今後に生かせる良い機会でした。またこのような機会があれば参加したいと思いました。」などの回答があり、来年も引き続き開催し、一人でも多く建築士の道を目指してもらえとうれしいです。



〈講義に聞き入る生徒さんの様子〉

北広島支部 気持ちを新たに

支部長
関川 修司



年も明け、気持ちを新たに。

わが町に新球場が出来た。球場前と駅前にはホテル、球場への道路も何本か出来ている。新駅舎も出来る。わが町の空き家対策も少しは軽減されるだろう。観光・経済へと、そのプラス面の効果に大いに期待をしているだろう。その反面も。

支部としては、見学会も出来なかったことを残念に思っている。

話は飛ぶが、テレビで「神社」特集をしていた。各地の著名な神社を採り上げていた。かつて行ったことがある美保神社も出てきた。この神社、今は島根県松江市であるが、初めに行った時には八束郡美保関ミホノセキ町であっ

た。美保の集落は、こぢんまりした港町で、島根半島の東端の地域。漁業と観光と釣りの名所である。江戸時代には北前船交易の要所として繁栄し、多くの廻船問屋も存在した。旅館も多い。美保神社は、港から少し奥まった所に、島根半島の山を背にし、海に向かって鎮座している。ここの神社を知ったのは、鳥取大会である。「美保造」「比翼大社造」と呼ばれる造りの社である。夕方であったか、神社に着いた。巫女さんが拝殿で舞っていた。見物人は無く、神符授与所の巫女さんに訪ねると、毎朝夕神様に捧げているという。驚いた。これは初めてである。今は昔の町である。かつてに比べれば氏子も相当減って居るであろうに。廃れず、今なお続けている神社はこだけという。

我が支部も、会員減、ものかわ。



毎朝夕、神職が拝殿で祝詞をあげ、巫女が舞を奉納の後、神職は境内社を巡拝する。



切妻屋根が左右に並ぶ「美保造」

旅館美保館は、昔の俣の登録文化財。

士別支部 士別支部近況

事務局長
佐藤 将吾



新型コロナウイルスが依然として猛威を振るう中、各支部においては、支部活動に苦慮されていることと思われます。

士別支部においても昨年は、例年実施している建築士の日に伴う事業「ビールパーティー」や会員の親睦パークゴルフ大会・ボウリング大会等の各事業を中止しており、思うように事業を開催できない状況が続いています。

数少ない市民との交流の場や会員交流の場を失うことは支部にとっても非常に残念なことです。

そんな中で唯一開催できたのが、昨年で7回目となった「クリーン&ウォーク」と言うゴミ拾いです。ただ、例年だとゴミ拾い実施後に「花見」を行い会員の親睦を

深めるのですが、昨年は屋外で接触の少ないゴミ拾いのみとすることで開催しました。

ゴミ拾い終了後に、士別市特産のサフォーク肉を使ったライスバーガーを配り、少しでも会員・賛助会員に参加していただければと考え実施しました。

建築士会本部の事業についても、webでの開催が多くなり、他支部の方々との交流場も減り寂しい年が続いていましたが、昨年3年ぶりに開催された第44回全道大会（空知大会）は、当支部から5名参加させていただきました。

久々の全道大会、また対面での開催ということであり、実際に現地に行くことができ、空知の魅力を存分に感じることもできました。また、他支部の方々との交流場も久々にでき、とても充実した全道大会でした。

開催にあたっては、空知支部の

方々の「Withコロナ」で行うための準備とても大変な苦労だったと思います。あらためて感謝いたします。

最近では、イベント等の開催も徐々に通常に戻りつつあります。今年は、感染対策徹底した上で、計画通りの事業を開催できるよう工夫して行きたいです。

全道各支部の皆様におかれましても健康に過ごされ支部活動にご尽力されますことを申し上げ士別支部の近況報告とさせていただきます。



唯一開催できた「クリーン&ウォーク」

道士会の動き

道本部の主な会議報告（1月）

◆第1回青年委員会

〈開催日〉14日(土)

- 1) 令和4年事業報告・決算報告、令和5年事業計画・予算
- 2) 全道青年委員会連絡会議
- 3) 青年建築士の集い
- 4) 全道大会青年サミット
- 5) 全道大会C分科会
- 6) その他

◆第1回まちづくり小会議

〈開催日〉28日(土)

- 1) 令和5年事業計画

本部の主な行事予定（2月）

18日(土) 第1回女性委員会（web併用）

関係機関等会議参加予定（2月）

22日(水) CPD活動関係学協会連絡会WEB会議

24日(金) 建築士会CPDプログラム評議会(WEB)
上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内（2月）

応急危険度判定士認定講習

1日(水) 苫小牧市 2日(木) 札幌市

監理技術者講習

15日(水) 札幌市

基準法講習会

1日(水) 滝川市 網走市	16日(木) 北斗市
3日(金) 富良野市	17日(金) 苫小牧市 江差町
8日(水) 札幌市 北見市	21日(火) 室蘭市 倶知安町
9日(木) 留萌市	22日(水) 小樽市
10日(金) 岩見沢市	28日(火) 稚内市
15日(水) 釧路市	

BIMセミナー

21日(火) 札幌市

編集後記

雪を楽しむぞ！と思えば、雪が降るのが嬉しいものですが、運転や雪のトラブルだけは、勘弁したいです。今年発行されている会誌を読むと、昨年からやっといろんな地域での活動が始まってきていることがわかり、嬉しく感じています。今年も、コロナに負けず楽しみたいものです。今年は、どこに旅行にいかうかしら。建築との出会いを求めて旅にでようかしら。有言実行！旅にでる！！長期間休みますー。

情報委員会 境谷 香奈（恵庭支部）

CPD認定プログラム(1月認定)

◆令和4年度北方型住宅技術講習会

〈日程及び会場〉2月14日(火) 13:30~15:30
TKP札幌駅カンファレンスセンター（札幌市）他1会場

〈単位数〉2単位

◆令和4年度建築・住宅セミナー

〈日程及び会場〉3月7日(火) 13:30~15:30
TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前（札幌市）

〈単位数〉2単位

〈上記問い合わせ先〉

(一財)北海道建築指導センター TEL 011-241-1893

◆北海道の建築技術向上のための講習会

〈日程及び会場〉2月16日(木) 10:00~15:00
札幌国際ビル 国際ホール（札幌市）

〈単位数〉4単位

〈問い合わせ先〉

(一社)北海道建設業協会 TEL 011-261-6185

◆第66回(令和4年度)北海道開発技術研究発表会

〈日程及び会場〉2月14日(火) 11:00~12:00
北海道開発局研究センター（札幌市）

〈単位数〉1単位

〈上記問い合わせ先〉

北海道開発局管轄部 TEL 011-709-2311 (内5782)

◆旭川市役所新庁舎建設現場見学会

〈日程及び会場〉2月3日(金) 14:00~15:30
旭川市役所新庁舎（旭川市）

〈単位数〉2単位

〈上記問い合わせ先〉

(一社)北海道建築士会十勝支部 TEL 0155-27-1888

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■2月パスワード：Nem028

お知らせ

北海道建築士No.305 1月号
P6 道士会の動き

北海道建築士会年間行事予定の記載内容に誤りがありました。

誤) 11月27日28日 全国大会（静岡大会）

↓

正) 10月27日28日 全国大会（静岡大会）

正しくは10月27日28日になります。

情報委員会委員長／森 勝利

副委員長／前田 繁・立花智亜喜

委員／今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌

村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.306号

印刷 令和5年1月／発行 令和5年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011)251-6076番
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011)811-7151番